

# | 第1章 | 本市の現状と課題の整理

## 目 次

### 1 都市の特性・概況

- (1) 位置
- (2) 合併
- (3) 歴史・文化
- (4) 自然
- (5) 田園
- (6) 土地利用

### 2 市街地の変遷

- (1) 市街化区域の変遷
- (2) 市街化区域と市街化調整区域の人口
- (3) 人口集中地区（D I D）の変遷
- (4) 都市的な土地利用の変遷
- (5) 低未利用地の状況
- (6) 空き家の状況

### 3 人口の状況

- (1) 市全域の人口
- (2) 各区の人口
- (3) 社会増減
- (4) 人口密度の状況
- (5) 高齢者の人口密度の状況

**参考レポート** 昼夜間人口動態  
／都市政策部GISセンター

### 4 交通基盤

- (1) 主要な交通網
- (2) 広域交流を支える空港・港湾の状況
- (3) 都市内交通の状況
- (4) 交通手段の構成
- (5) バス利用者数・運行状況の推移
- (6) 幹線道路網の将来計画
- (7) 公共交通ネットワークの将来計画

### 5 産業・生活サービス

- (1) 事業所数及び従業員数の推移
- (2) 事業所の分布状況
- (3) 大規模な店舗の新規出店状況
- (4) 小売施設建築面積の分布状況
- (5) 商圏の推移
- (6) 日常生活に必要なサービス機能の集積状況
- (7) 医療・福祉・子育て・教育施設の状況

### 6 財政など

- (1) 都市経営の状況
- (2) インフラの維持管理コストの状況
- (3) 環境負荷

### 7 本市の現状と課題の整理

## 1 都市の特性・概況

### (1) 位置

◇本市は、沖積平野としては日本最大級の越後平野の中央部に位置し、大半は信濃川と阿賀野川によって形成された沖積低地となっています。

◇古くからみなとまちとして栄える一方、幾多の治水事業により、全国でも有数の穀倉地帯がつけられました。

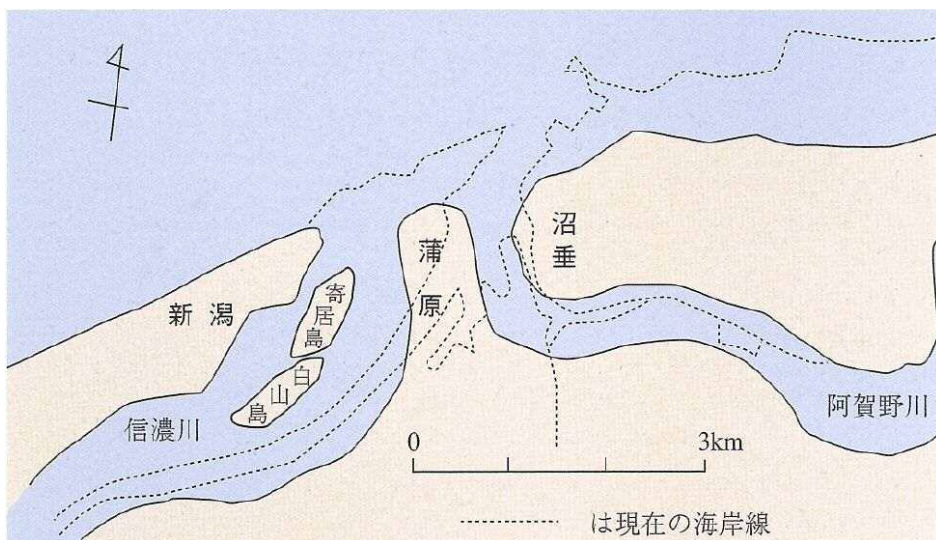


図 かつての信濃川・阿賀野川河口部（蒲原津・沼垂湊・新潟津）

資料：新潟市

### (2) 合併

◇合併を重ね、平成19年4月1日に本州日本海側初の政令指定都市となりました。

面積：726km<sup>2</sup> / 人口：約81.4万人（当時）

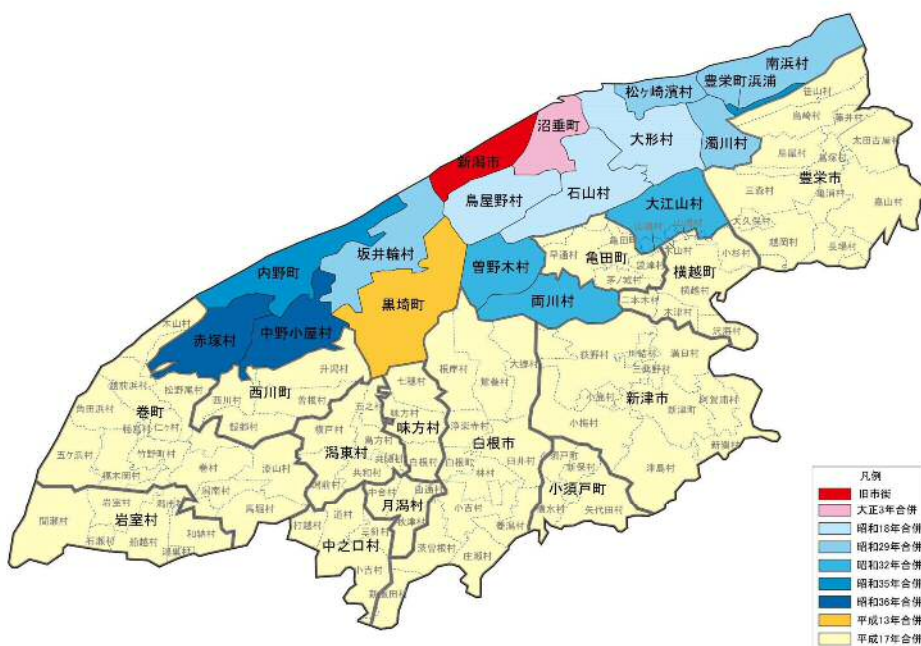


図 合併の変遷

資料：新潟市

(3) 歴史・文化

- ◇日本海側の拠点都市である本市は、江戸期から、日本海海運の拠点である新潟湊と、現在の市域の大半を占める田園地域、新津や豊栄、巻などそれぞれ異なる成り立ちをもつ町が支えあいながら発展してきました。
- ◇14市町村の合併により生まれた現在の本市は、各地域それぞれの多様な歴史・文化や個性を併せ持っています。



図 近世の在郷町 (図中の○)

資料：新潟市

表 旧市町村のまちの特性・個性・成り立ちなど

旧市町村	まちの特性・個性・成り立ちなど	旧市町村	まちの特性・個性・成り立ちなど
新潟市	開港五港、みなとまち、信濃川、鳥屋野潟、佐潟、国際空港、国際港湾	岩室村	北陸街道の宿場町（観光・温泉）
新津市	鉄道のまち、石油のまち、バイオリサーチパーク、新津丘陵	西川町	長岡藩代官所、鎧潟、水田地帯
白根市	宿場町、鉄器・繊維・仏壇産業、フルーツのまち（桃・ぶどう・梨）、大凧	味方村	笹川邸、大凧、水田地帯
豊栄市	葛塚綿、福島潟、葛塚蒸気（新井郷川、阿賀野川、通船川経由）、新潟東港	潟東村	鎧潟、水田地帯
小須戸町	航路の中継地（新潟－三条）、小須戸綿、花き・花木（ボケ）	月潟村	果樹（梨）、月潟鎌、角兵衛獅子（伝統芸能）
横越町	水上交通の拠点（阿賀野川）、米・果樹・野菜・チューリップ、北方文化博物館	中之口村	果樹（梨・ぶどう・桃）、金属加工工業
亀田町	亀田郷の中心、市場のまち・商業のまち・織物のまち	巻町	西蒲原の中心地、柿団地、日本海と角田山（国立公園）、国県の出先機関

資料：市町村合併時資料「市町村の沿革」

(4) 自然

◇信濃川・阿賀野川などの大小の河川、鳥屋野潟、佐潟、福島潟、上堰潟などの湖沼、山地、丘陵、海岸林などの豊かな水と緑を有しています。



図 鳥屋野潟



図 信濃川

資料：鳥屋野潟と新潟市街、新潟市、CC-BY 2.1 JP

(5) 田園

◇水田耕地面積は市町村別で全国第1位を誇り、政令市でありながら広大な田園空間を有しています。

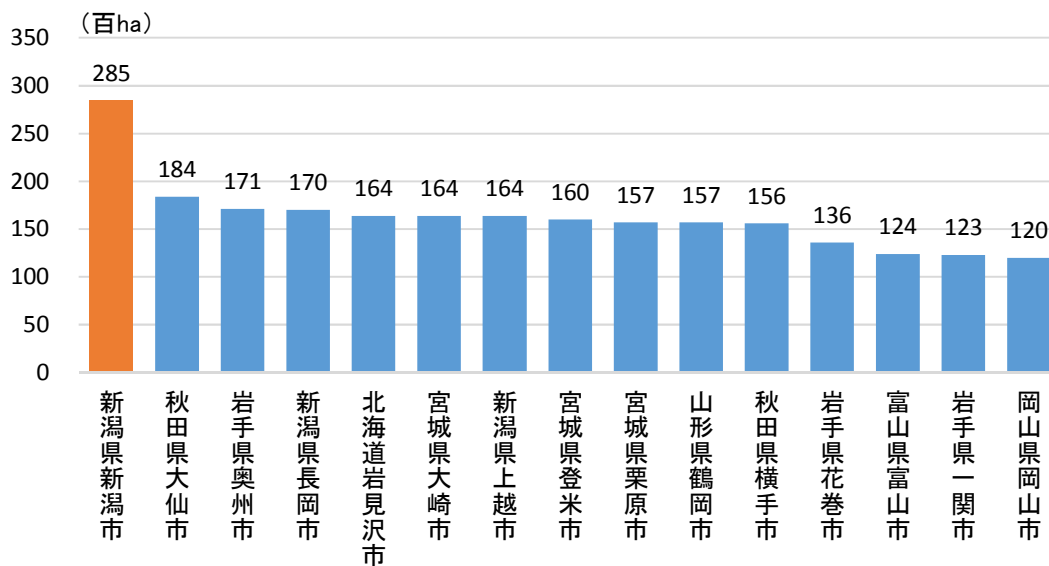


図 水田耕地面積

資料：作物統計調査（平成27年）

(6) 土地利用

- ◇土地利用状況をみると、市全体では都市的土地利用\*が約3割、自然的土地利用が約7割となっており、自然に恵まれた市街地であることがうかがえます。
- ◇区域区別にみると、市街化区域は約92%が都市的土地利用となっており、市街化調整区域は約81%が自然的土地利用となっています。

※都市的土地利用：住宅地、商業地、工業地、公共公益、道路、交通施設、公共空地、他の公的施設、他の空地

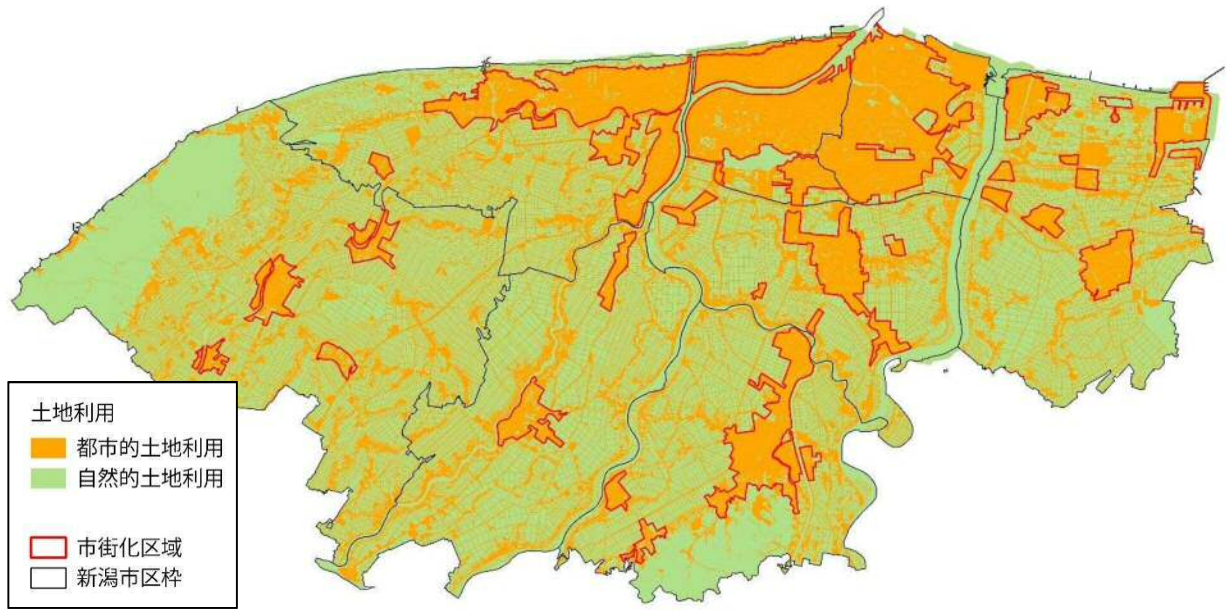


図 土地利用現況

資料：都市計画基礎調査（平成24～26年度）新潟県・新潟市

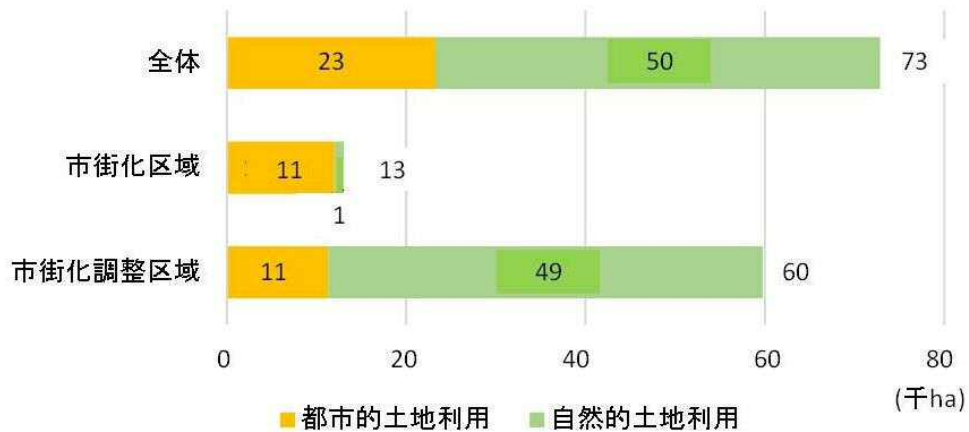


図 土地利用面積

資料：都市計画基礎調査（平成24～26年度）新潟県・新潟市

**1 都市の特性・概況**

現状からみる課題

- それぞれの地域が独自に育んできた歴史や個性を活かした、それぞれの地域の魅力向上を図ることが必要
- 日本海側の拠点として、多くの人を引き付ける都市づくりを目指す必要がある
- 市街地と自然・田園との調和が今後も維持され、互いに支えあう都市構造を維持する必要がある

## 2 市街地の変遷

### (1) 市街化区域の変遷

◇本市の市街地は、人口の増加にあわせて拡大を続け、市街地が形成されてきました。

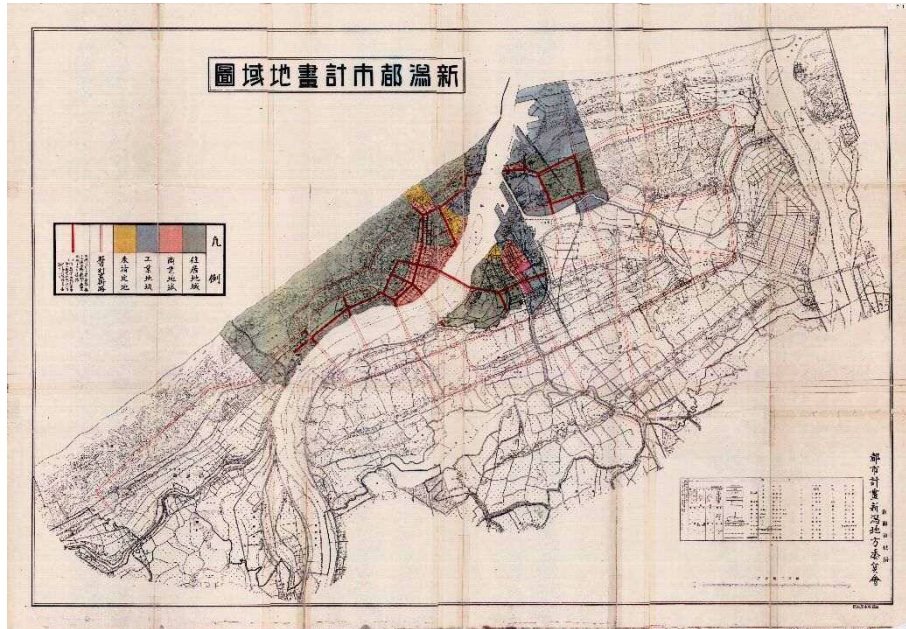


図 昭和初期の都市計画区域

資料：新潟市

都市計画区域	区域区分	
	市街化区域	市街化調整区域
72,645 ha	12,904 ha	59,741 ha

資料：新潟市都市計画主要データ（H28.3 末現在）

#### 凡例

##### 用途地域

- 第1種低層住居専用地域
- 第2種低層住居専用地域
- 第1種中高層住居専用地域
- 第2種中高層住居専用地域
- 第1種住居地域
- 第2種住居地域
- 準住居地域
- 近隣商業地域
- 商業地域
- 準工業地域
- 工業地域
- 工業専用地域

- 市街化区域
- 新潟市区枠

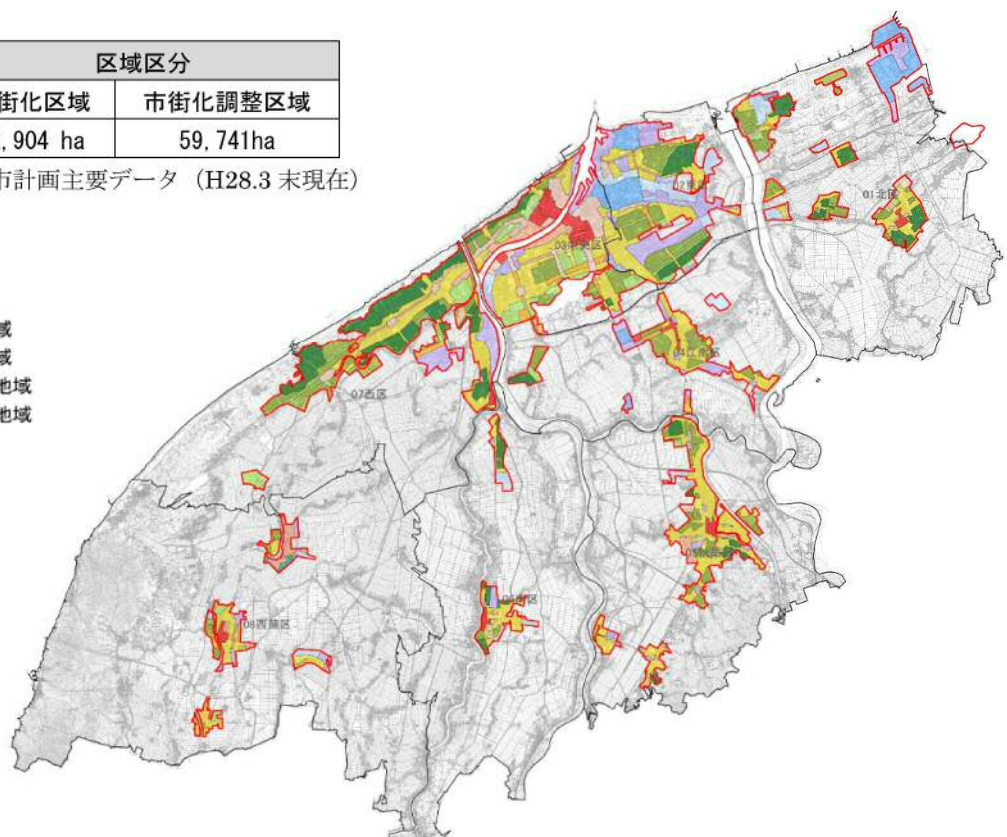


図 現在の都市計画区域（平成23年）

資料：国土数値情報（用途地域データを加工）

(2) 市街化区域と市街化調整区域の人口

◇都市計画区域の拡大とともに、市街化区域の人口は増加を続けてきました。

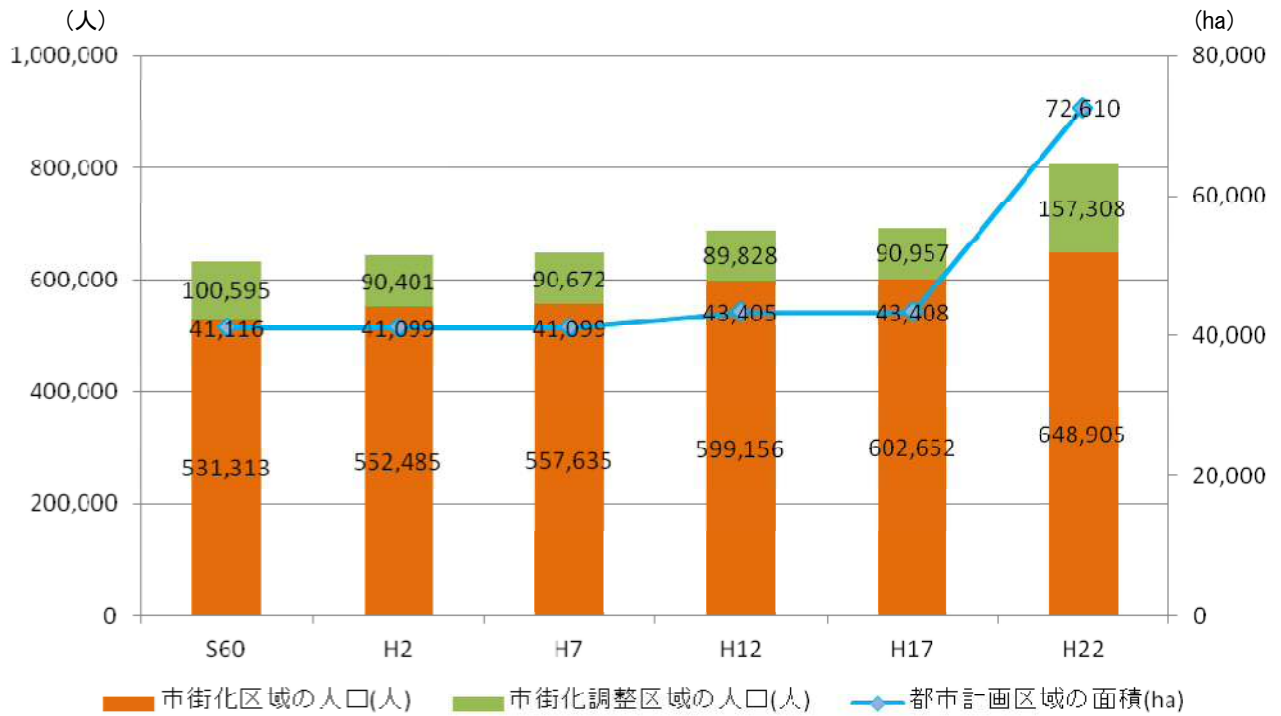


図 市街化区域・市街化調整区域の人口動向

注) 新潟都市計画区域を構成する旧新潟市、旧新津市、旧豊栄市、旧小須戸町、旧横越町、旧亀田町の合計  
 ※平成2年の人口は「新潟県の都市計画」にデータがないため、平成5年の人口(住民基本台帳)とした。

資料：国勢調査、新潟県の都市計画、都市計画年報

(3) 人口集中地区(DID)の変遷

◇DID面積は年々増加傾向にある一方で、DID人口密度は近年では横ばいで推移しています。市域の人口減少が見込まれることから、DIDの低密度化が予測されます。

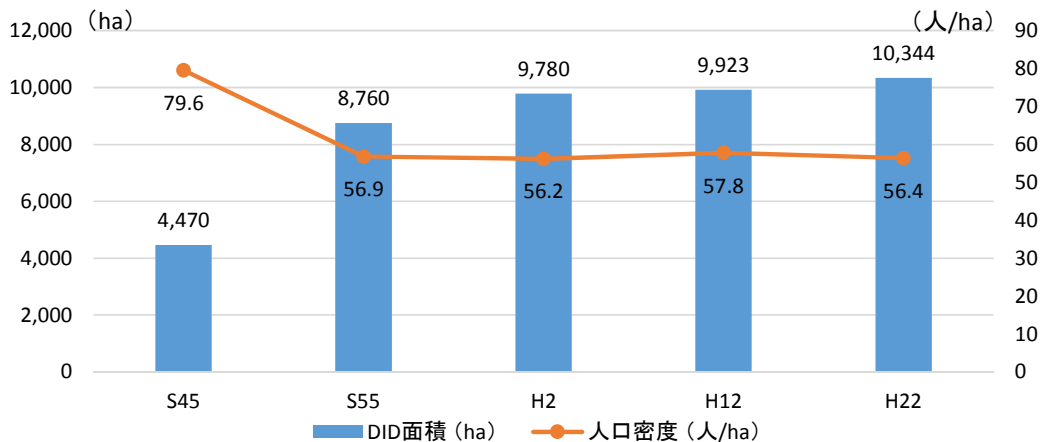


図 DID面積とDID人口密度の推移

資料：国勢調査

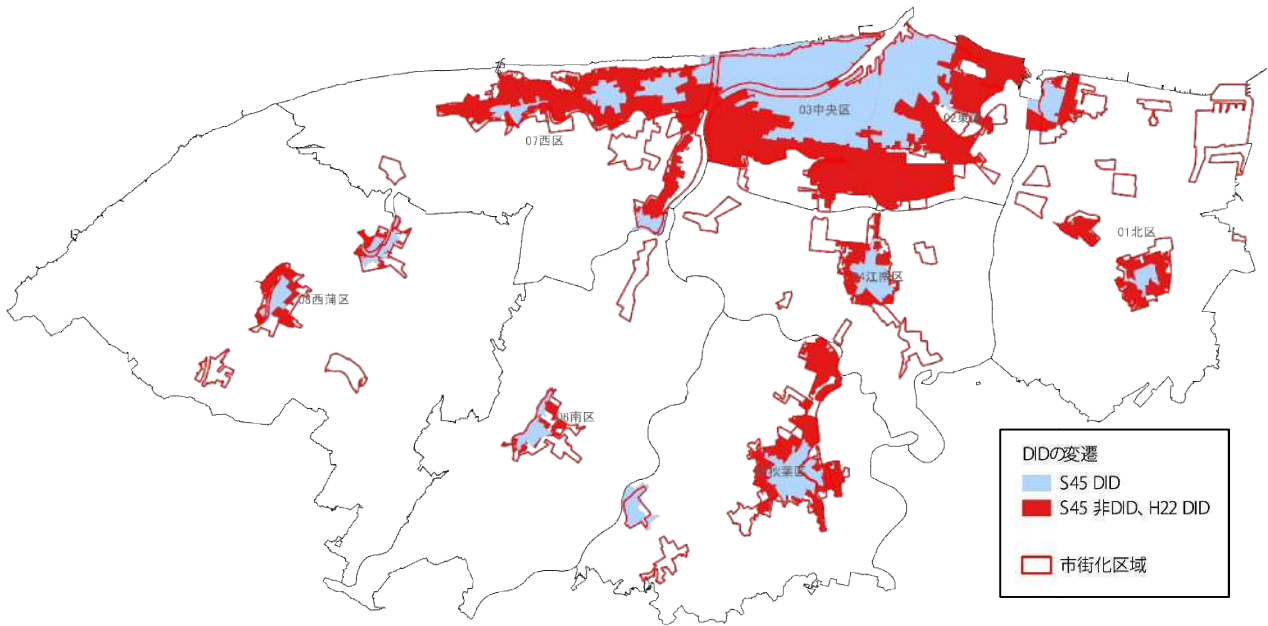


図 DID重ね合わせ (S45~H22)

資料：国勢調査

(4) 都市的な土地利用の変遷

◇S51年からH21年の30年間の都市的土地利用の動きを見ると、都心や鉄道駅付近（旧来からの商業地）、鉄道沿線の住宅地などは、30年以上建物用地（黄色い部分）となっている一方で、新規建物用地として変化した箇所は滲み出すように市街地の縁辺部に広がってきました。

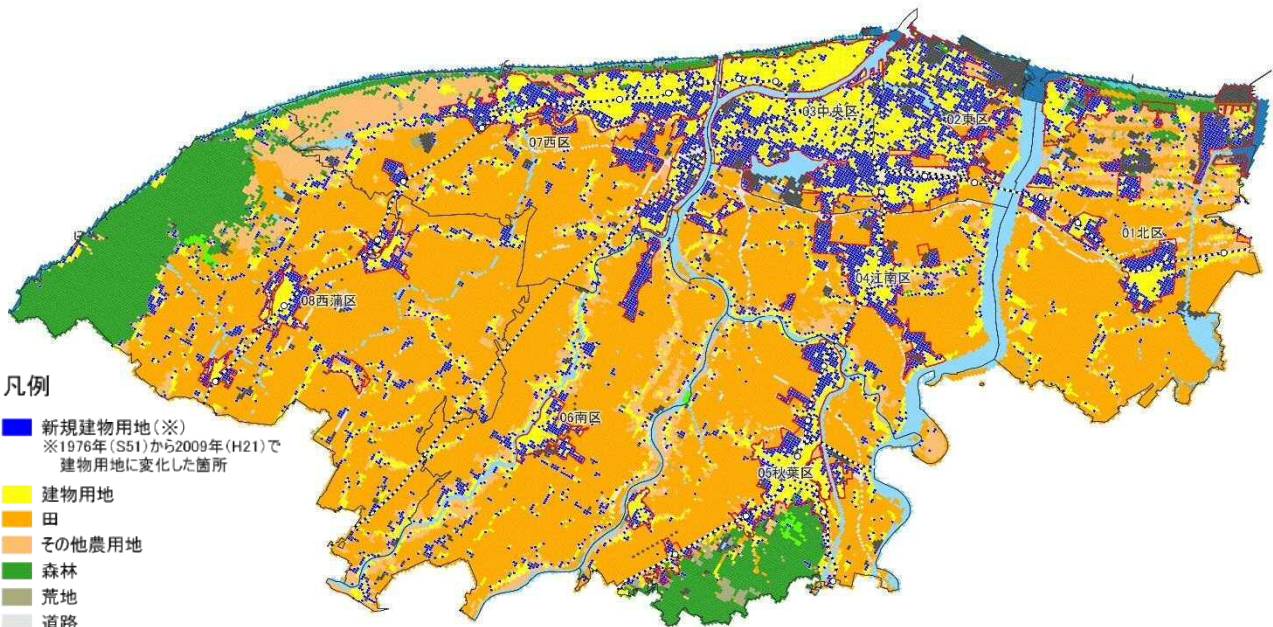


図 都市的土地利用の広がり (S51~H21)

資料：国土数値情報（土地利用細分メッシュ（S51・H21）データを加工）



(5) 低未利用地の状況

◇市全体の低未利用地の約42%にあたる約560haが市街化区域にあり、市街地の活力低下の要因の一つでもあります。

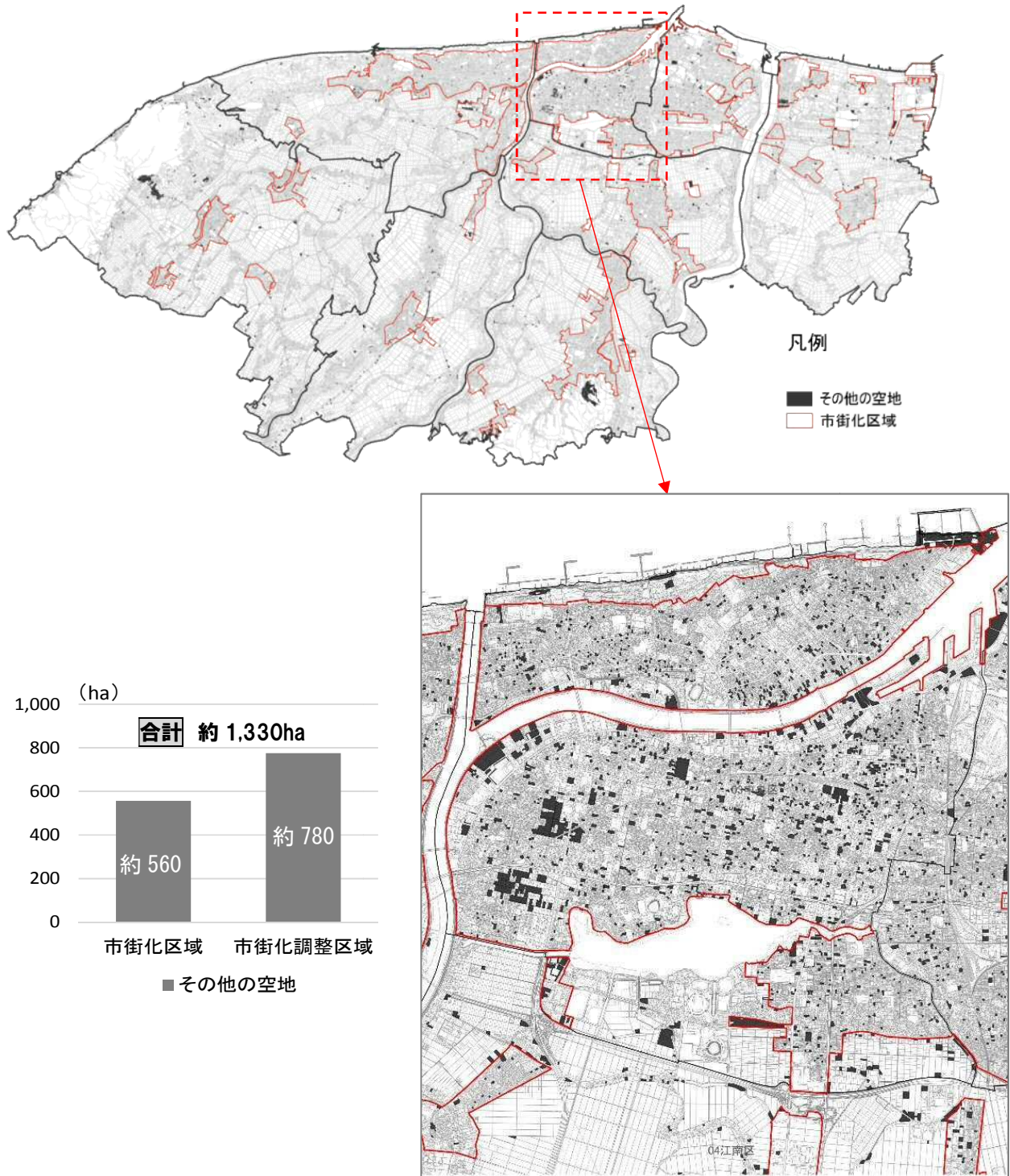


図 低未利用地の状況

注) 低未利用地：ここでは、都市計画基礎調査の土地利用区分「その他の空地」とした。  
 なお、「その他の空地」には未利用地（建物跡地等、都市的状況の未利用地）のほか、  
 改変工事中の土地、平面駐車場、ゴルフ場が含まれる。

資料：都市計画基礎調査（平成24～26年度）新潟県・新潟市

(6) 空き家の状況

◇空き家の増加に伴うまちなかの空洞化が懸念されます。  
 ◇空き家数は中央区が最も多く、空き家率も高くなっています。

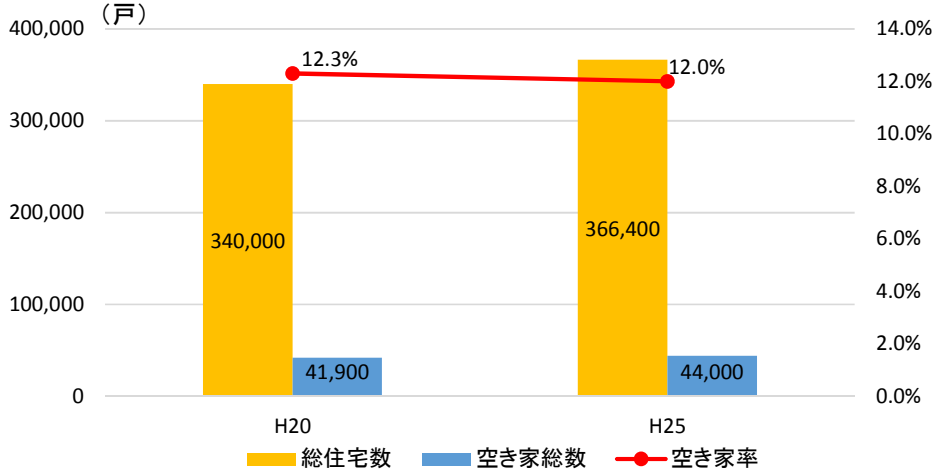


図 空き家数と空き家率の推移

資料：住宅・土地統計調査

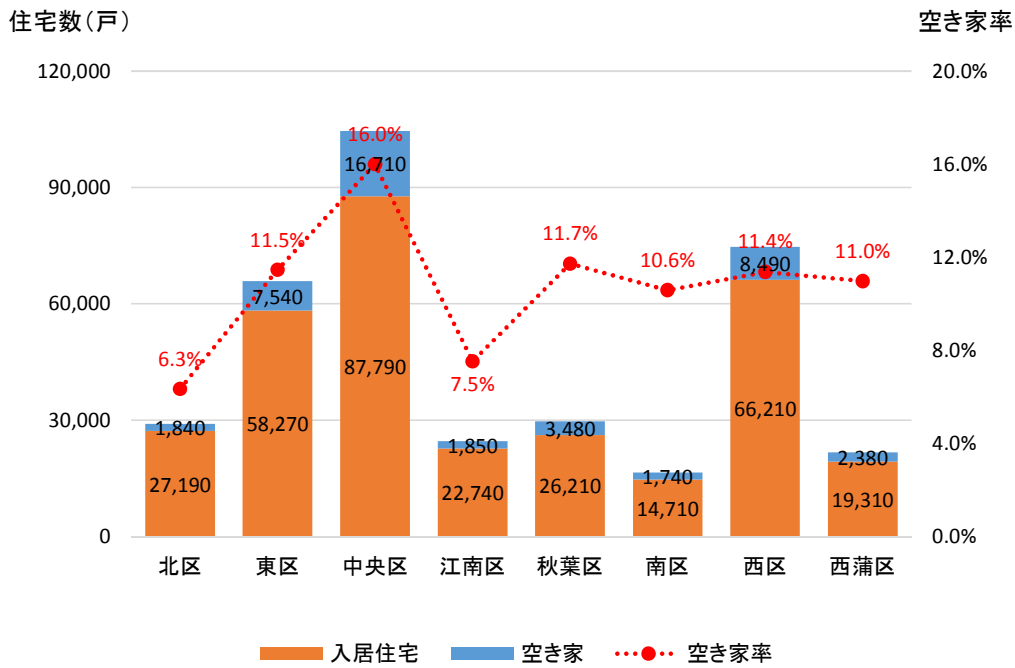


図 空き家と空き家率 (H25)

資料：住宅・土地統計調査

**2** 市街地の変遷

現状からみる課題

- それぞれの地域の個性を活かしたまちなか形成を今後も維持していく必要がある
- 既成市街地をより一層活かし、現在の生活基盤や環境を維持・充実させていく必要がある

### 3 人口の状況

#### (1) 市全域の人口

◇新潟市の人口は、平成17年の約81.4万人をピークに減少に転じています。  
 ◇25年後の平成52年には、現在の約8割の人口規模（約66.8万人）になることが予測されており、その間、少子化・高齢化がさらに進行する見込みです。

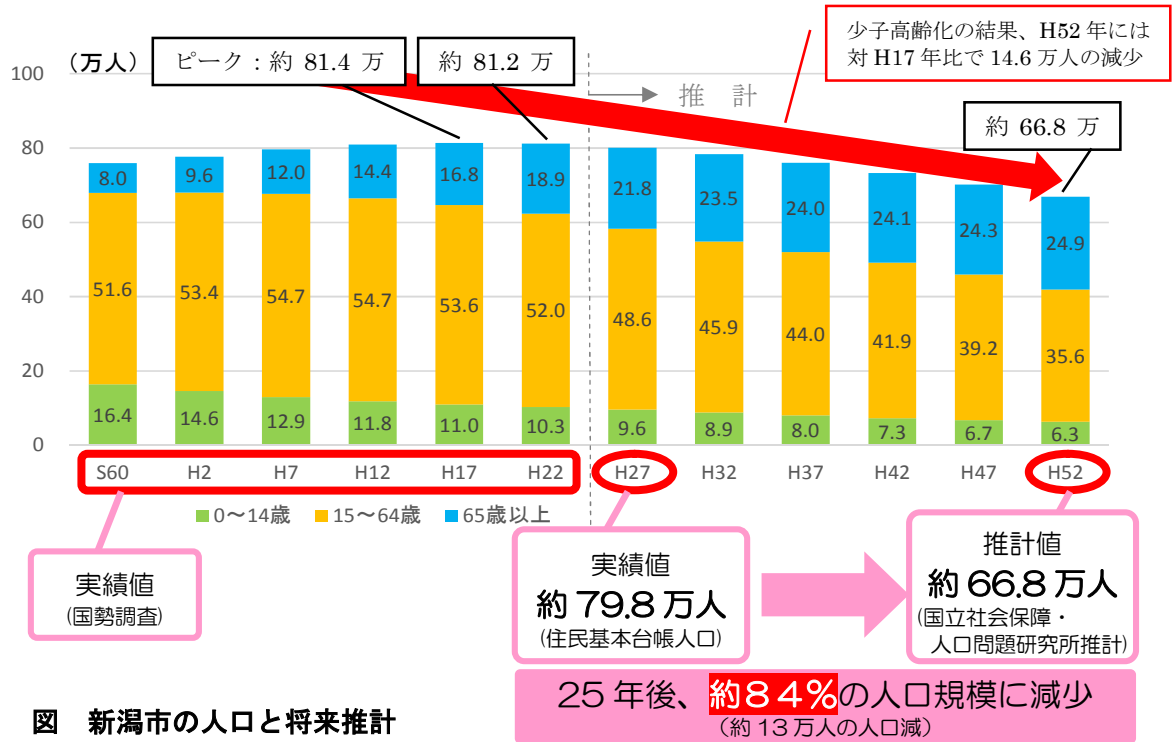


図 新潟市の人口と将来推計

#### (2) 各区の人口

◇各区の将来人口は減少する見込みであり、いくつかの区では平成52年の人口は平成27年の7割程度になるものと予測されています。

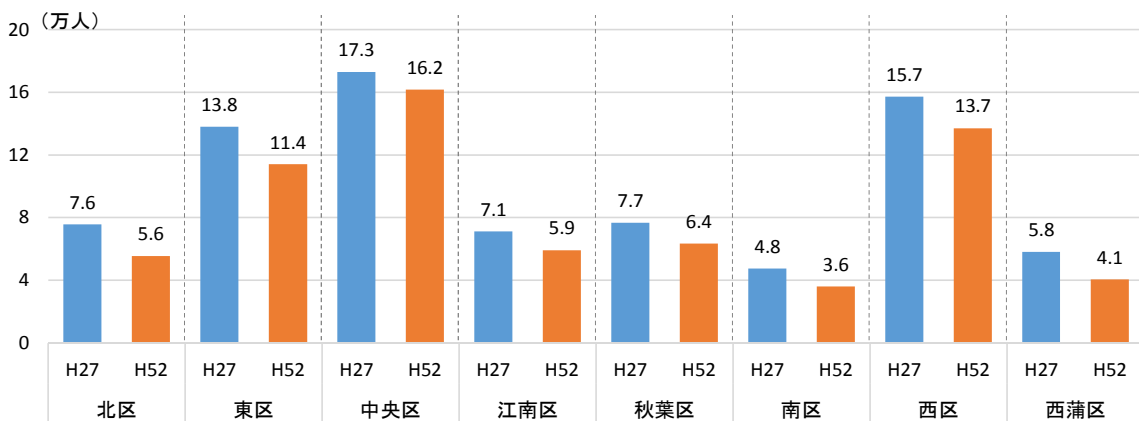


図 各区の人口 資料：住民基本台帳（H27）、推計値（H52）

(3) 社会増減

◇転入数と転出数はほぼ同数で推移しています。  
 ◇転出は20～24歳の進学就職時期における首都圏への転出超過が多くなっています。一方、転入は就職・転職期、結婚期である25歳～44歳の県内からの転入超過が多く、県内の人口ダム機能を担っています。

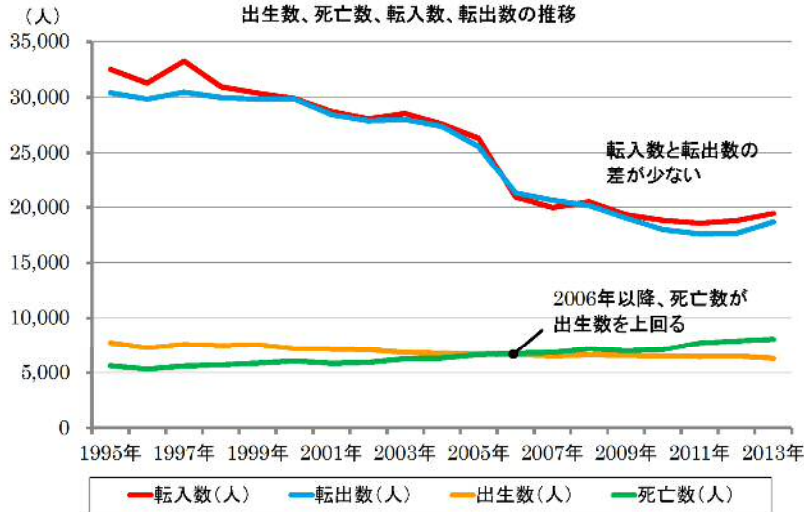


図 転入・転出数の推移

資料：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び数に関する調査（1995年～2013年、総務省）

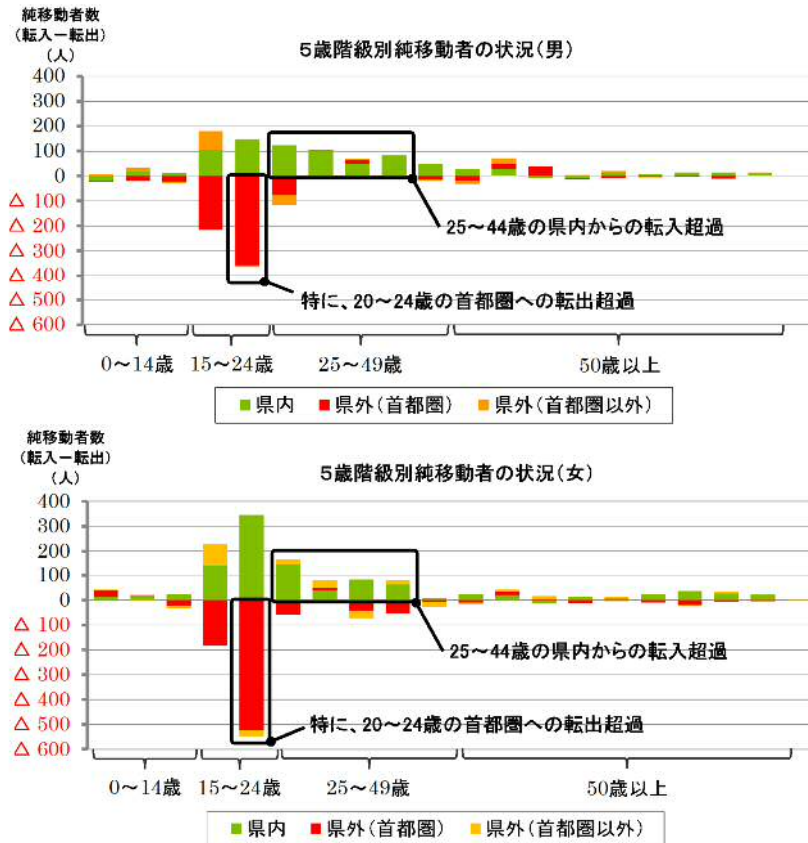


図 5歳階級別純移動者の状況

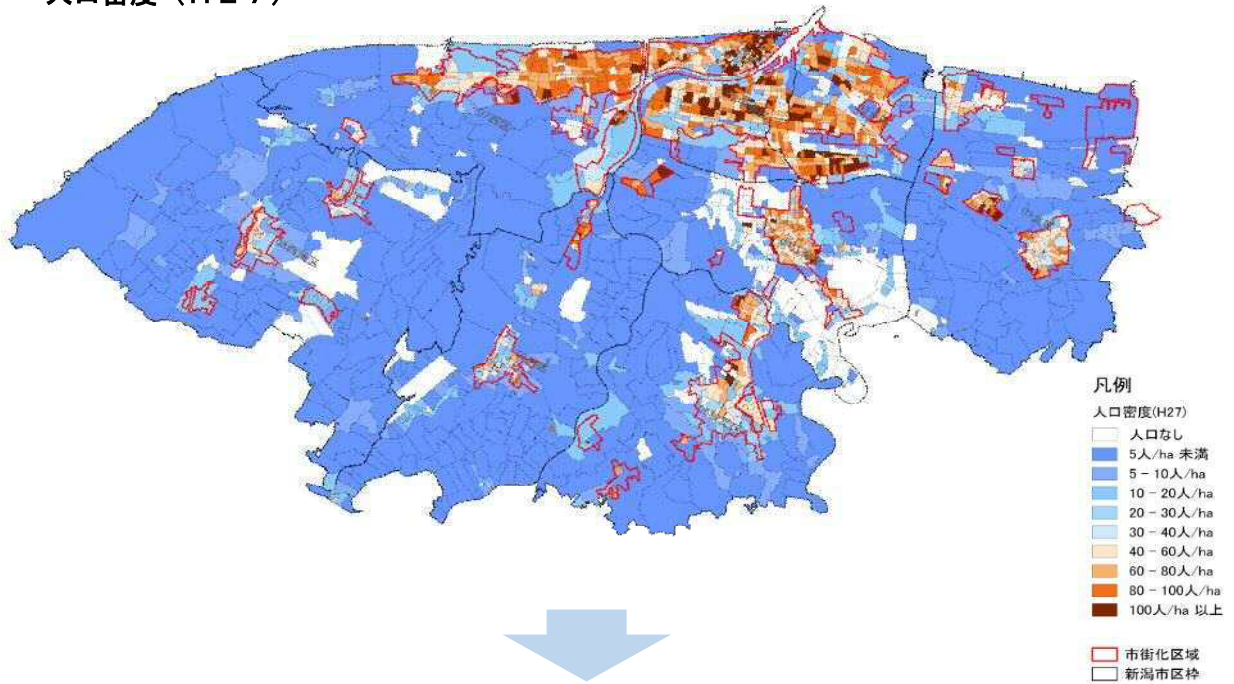
資料：住民基本台帳移動報告（2013年）

(4) 人口密度の状況

◇今後、各区とも人口減少が進む見込みですが、秋葉区、南区、西蒲区では、それぞれのまちなかにおいて40人/ha\*の人口密度を下回る市街地が見られます。  
 ◇また、北区、江南区のまちなかとなる市街化区域においても、人口の低密度化が進む見込みです。

※40人/ha・・・人口集中地区に要求される人口密度の基準（国勢調査より）。

人口密度（H27）



将来の人口密度（H52）

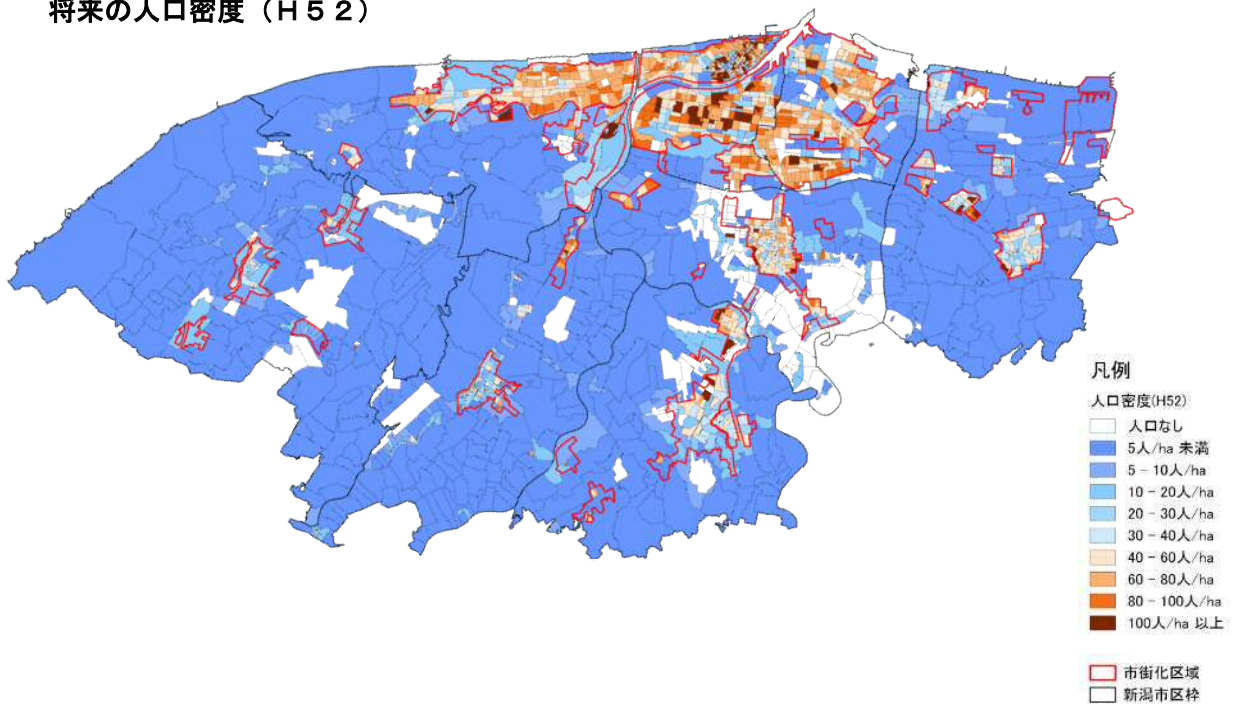
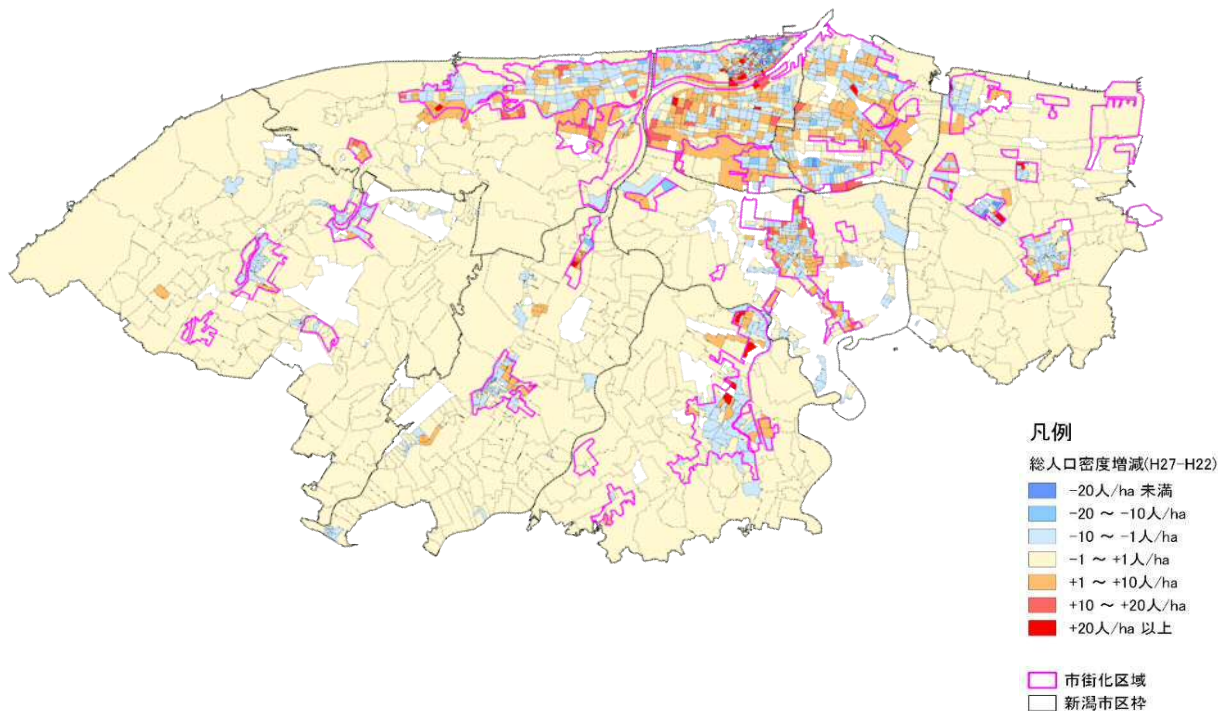


図 人口密度の現状と将来見通し

資料：住民基本台帳（H27）、コーホート法による推計値（H52）

人口密度増減 (H22~27)



人口密度増減 (H27~52)

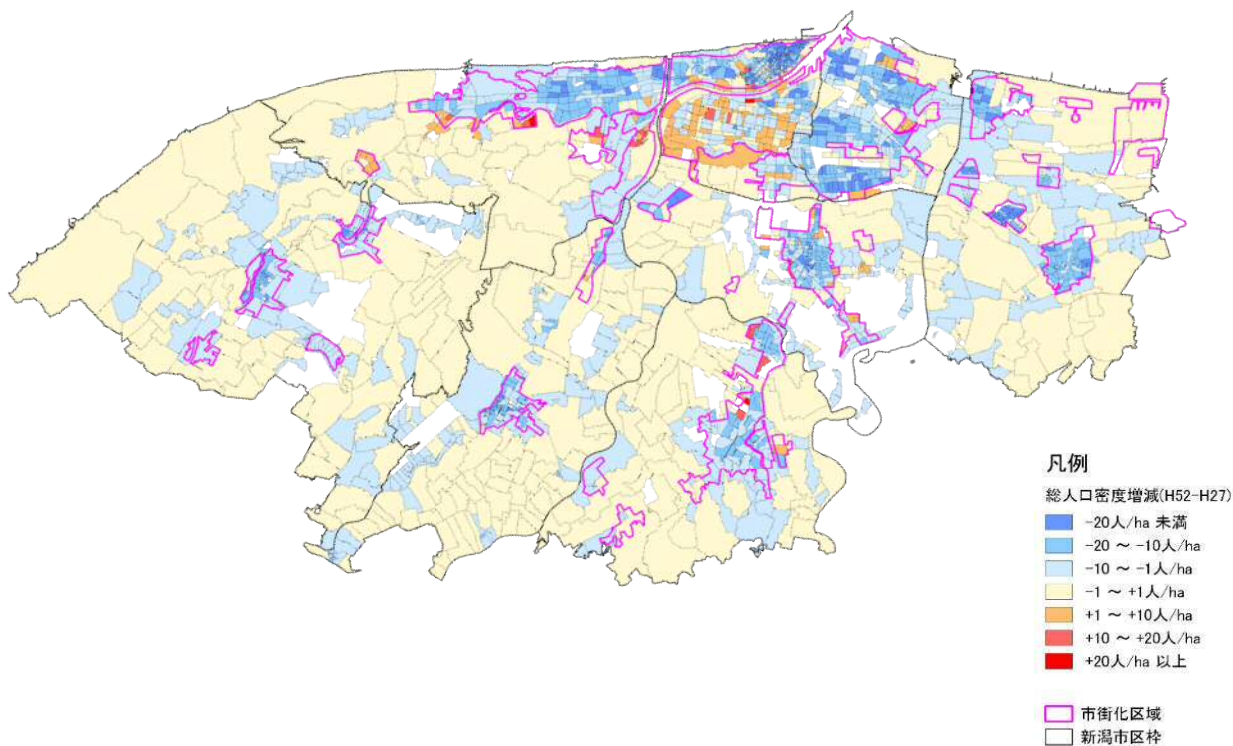


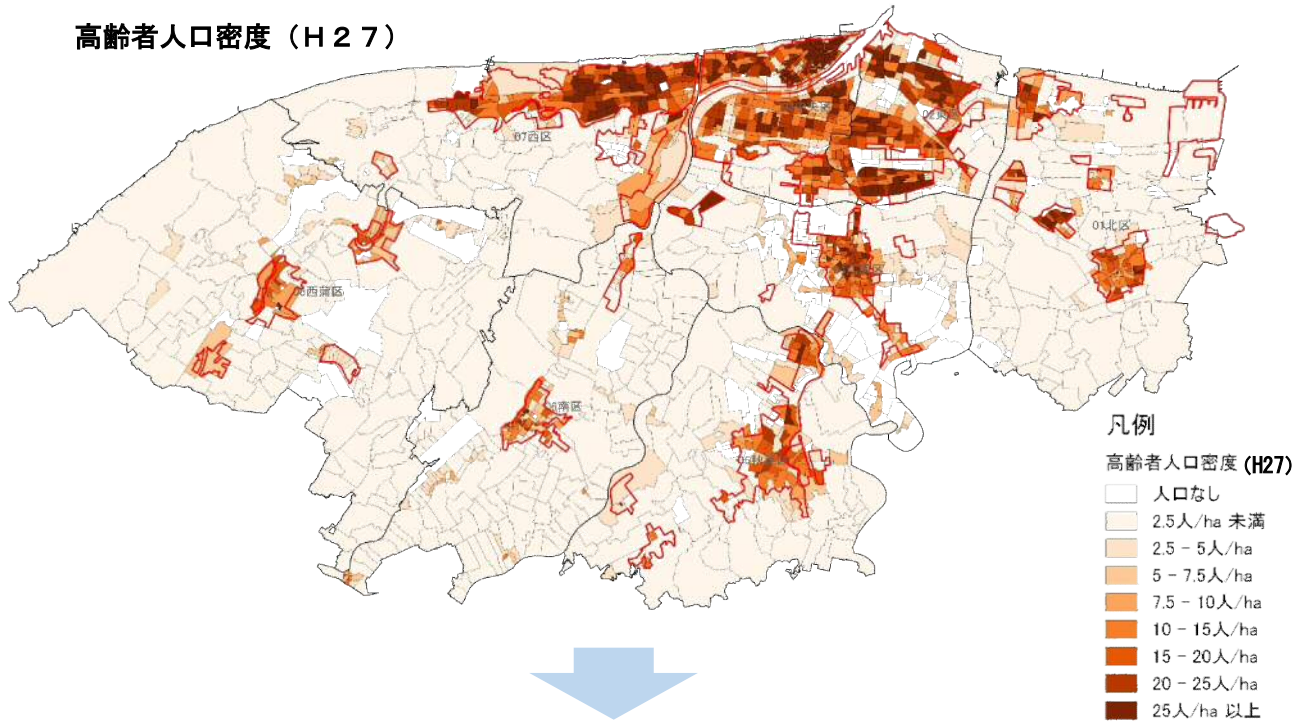
図 人口密度の増減

資料：住民基本台帳 (H22・27)、コーホート法による推計値 (H52)

(5) 高齢者の人口密度の状況

- ◇市街化区域では、全般的に高齢者の人口密度が高く、東区・中央区の都心及び都心周辺部や、西区の JR 越後線沿線の市街地などでは、高齢者の人口密度が高いエリアが広範囲に連坦しています。また、その縁辺部でも高齢者の人口密度が高まっており、さらに高齢化は深刻化します。
- ◇将来も高い人口密度が維持されるエリアで、高齢化（高齢者人口密度の増加）が進むものと予測されます。

高齢者人口密度 (H27)



高齢者人口密度 (H52)

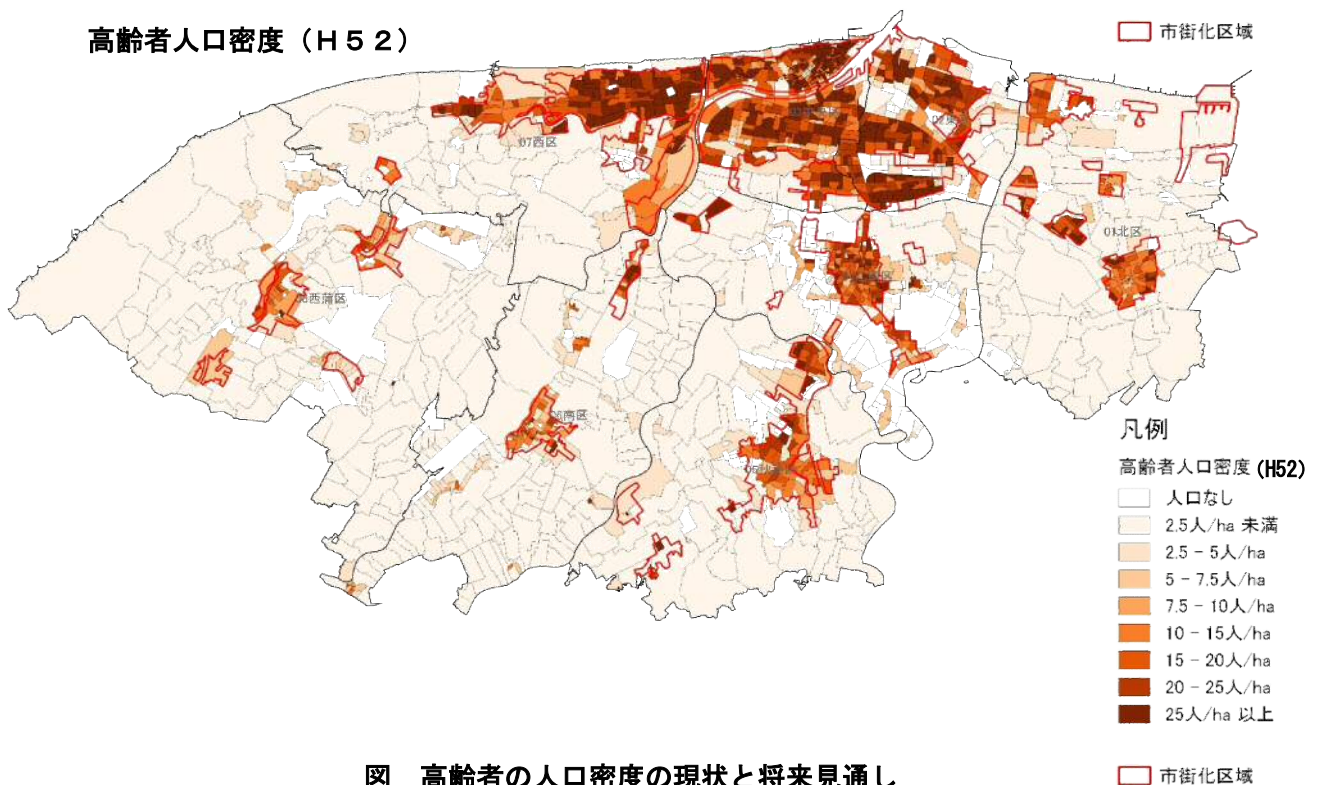
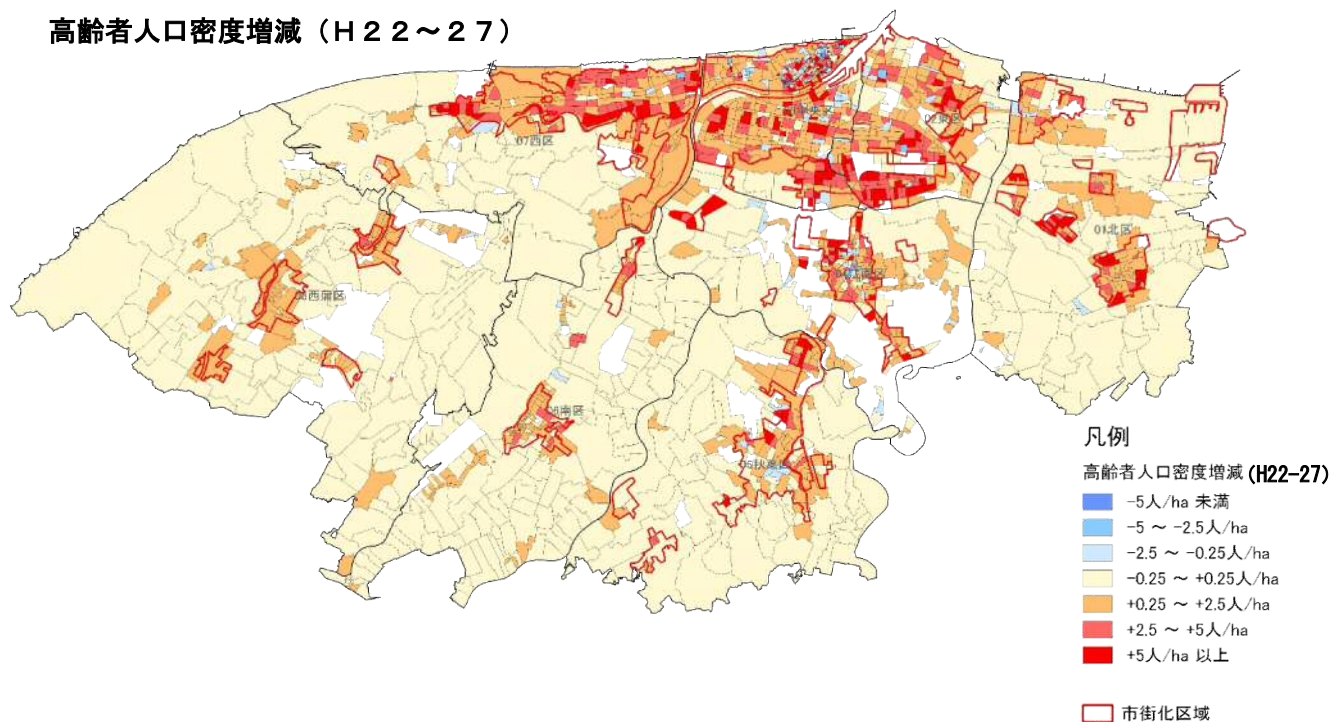


図 高齢者の人口密度の現状と将来見通し

資料：住民基本台帳 (H27)、コーホート法による推計値 (H52)

高齢者人口密度増減 (H22~27)



高齢者人口密度増減 (H27~52)

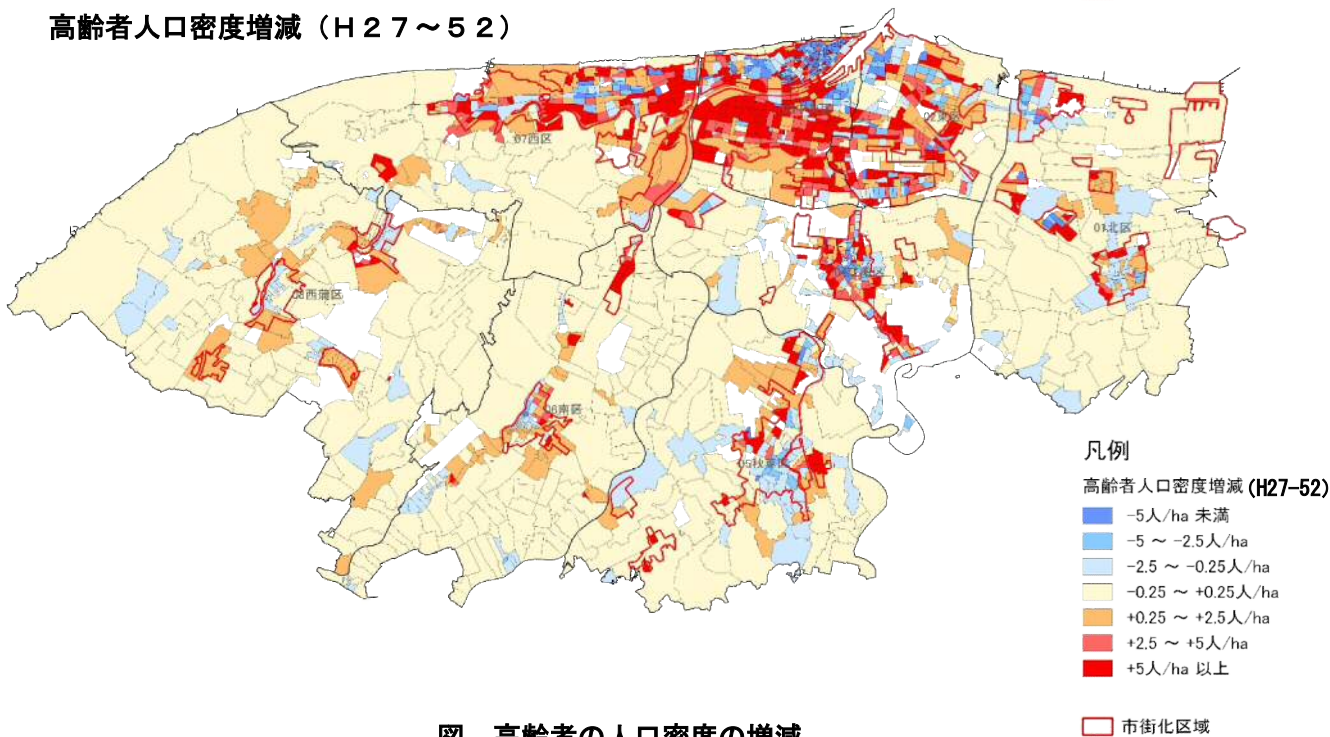


図 高齢者の人口密度の増減

資料：住民基本台帳 (H22・27)、コーホート法による推計値 (H52)

**3** 人口

現状からみる課題

- 人口の減少を抑制するために、人口を増やす取り組みが必要
- 高齢者や子どもが安心して暮らせ、若い世代が住み続けたいと思える都市を目指す必要がある
- 特に、まちなかにおいて人口減少が顕著となることが見込まれ、人口流出の抑制、交流人口の拡大を図り、都心の魅力やそれぞれのまちなかの特色を維持していく必要がある



参考レポート 昼夜間人口動態 / 都市政策部GISセンター

- ◇平日昼間の都心は、人口密度が10,000人/km<sup>2</sup>を越える。
- ◇人口動態は日中、夜間にかけて約27,000～65,000人の間で規則的に変動し、多くの会社や学校が休みとなる日曜日12時には約45,000の人口が集積している。

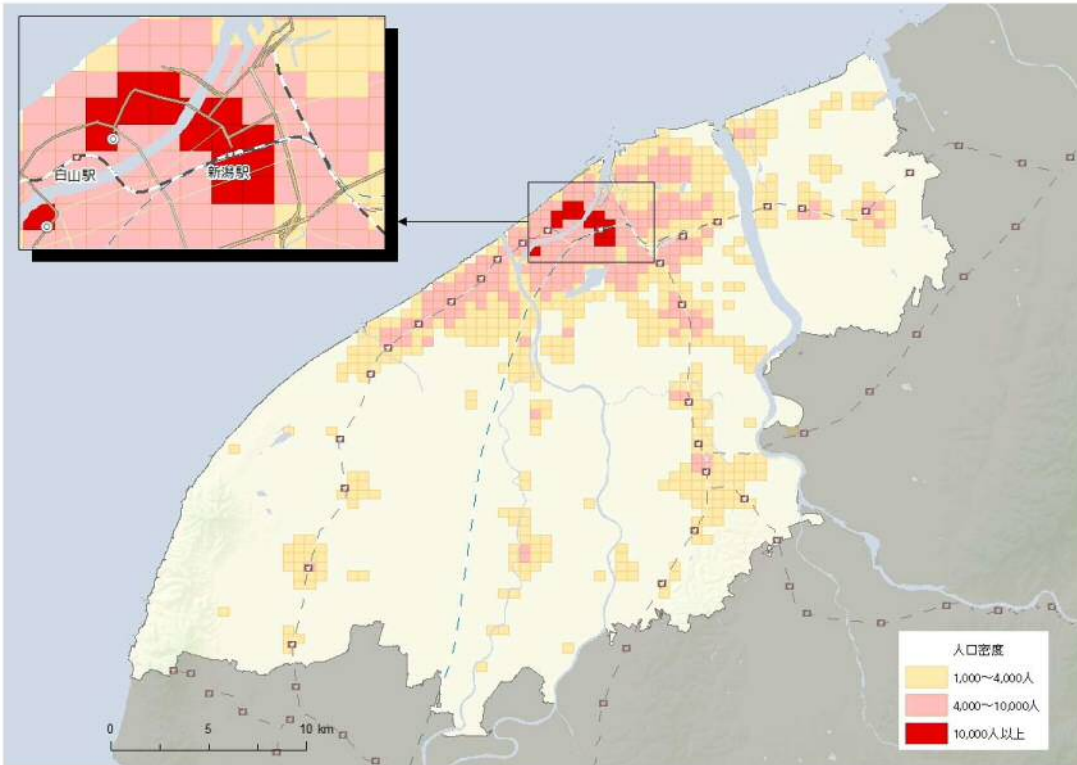
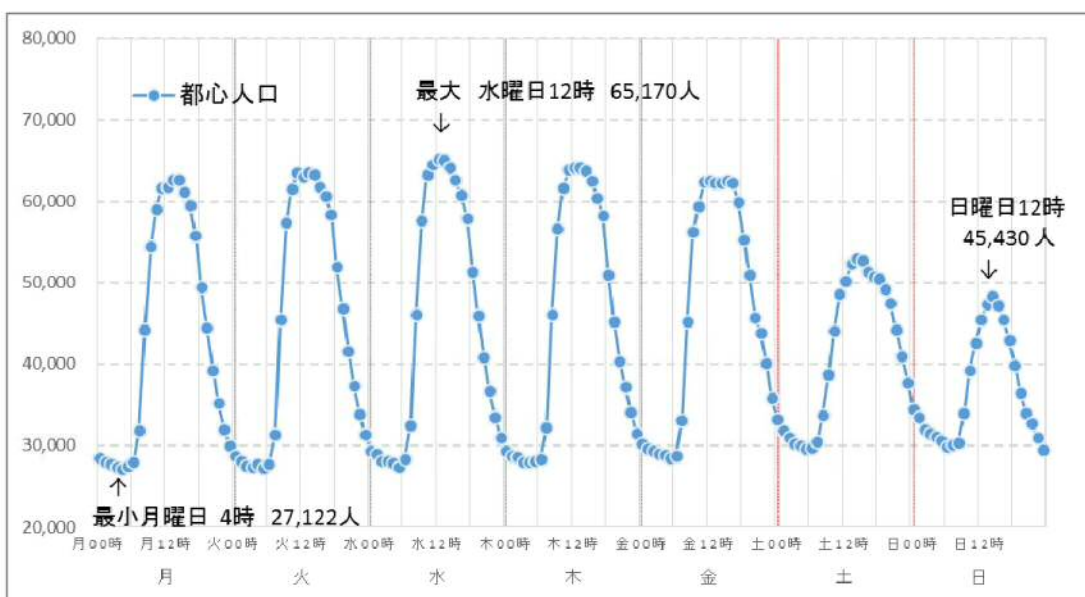


図 昼間人口密度 (2014年9月29日9時現在)

資料：モバイル空間統計 ((株)ドコモ・インサイトマーケティング)、住民基本台帳



グラフ 都心 (15メッシュ) の昼間人口動態(2014年9月29日～2014年10月5日)

資料：モバイル空間統計 ((株)ドコモ・インサイトマーケティング)